


【岐阜女子大学】メタデータ記述用紙

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄の歴史上人物
3	資料名	恩納ナビー 生誕地跡
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄、歴史、恩納ナビー、マッコウ家、生誕地跡、琉歌
6	説明	<p>恩納ナビーは琉球王朝尚貞王の時代に生まれたとされ、吉屋チルーとならんで18世紀はじめに活躍した琉歌の二大女流歌人の一人である。恩納ナビーの生きた時代は、「琉球文化の黄金時代」とよばれ、文学・音楽・舞踊と一流の文化人が排出されると同時に、庶民の間でも琉歌が流行った。</p> <p>現在、恩納ナビーの生誕地跡は、見晴らしの良い畑のようになっており、道寄りに「恩納ナビーの生誕地跡マッコウ家」の碑が設置されている。「マッコウ家」は恩納ナビーの家号である。</p> <p>恩納ナビーの生誕地跡へは、恩納公民館（恩納区体育館）入口を右手にふれあい会館の間の細い路地を進むと小さな十字路に出る。正面角に『恩納ナビー誕生の地』と『ガンジャガー（井泉）』と書かれた案内があり、案内どおり、十字路を左折すると、すぐ右手に来た道を折り返すように下り坂がある。下り坂入口付近には「恩納ナビー誕生の地入口 50m」という石製の案内板がある。</p> <p>坂道を下って行くと前方Y字路の分岐点に『恩納ナビー誕生の地』の碑がある。</p> <p>Y字路を右手に50m程進むとガンジャガー（井泉）があり、設置された案内板に恩納ナビーに関する地を巡る散策路や説明などが記されている。</p>
7	形式	静止画（jpg）
8	氏名	撮影者：*****
9	時代・年	2021/12/25
10	地域・場所	沖縄県国頭郡恩納村恩納
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0)
12	関連資料	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	2021/12/26
16	登録者	伊佐初子
17	ファクトデータ	circd0911-0135.jpg

18	サムネイル	
19	公開の可否	公開可
20	* 特色	<p>【琉歌】</p> <p>『沖縄大百科事典 下』によると、琉歌とは以下のように書かれている。</p> <p>和歌にたいする語で、琉球文学のなかで、主として奄美・沖縄諸島に伝承される叙情的な短詩形歌謡の総称。琉歌の呼称が定着したのは、薩摩侵入後のことであろう。大和文芸である和歌が受容されるにつれて、それと区別するためにことさらに琉球の歌＝琉歌と称したものとされる。琉歌は叙情歌がそうであるように、個人が共同体の束縛から抜け出し、個人の感情が普遍化される社会に発生したものであり緊張した歌形のうちに瞬間の思いを凝縮させた、内的心情を表出した世界である。形態的な特徴から、短歌・長歌・仲風・口説・木遣りに分けることができ、そのなかでも狭義の琉歌を意味する8・8・8・6調の短歌は最も多く創作され、特徴を最もよく示している。 (比嘉実.“琉歌”.『沖縄大百科事典, 下』. 沖縄大百科事典刊行事務局編. 沖縄タイムス社, 1983, p847-849)</p> <p>【しまくとうば】</p> <p>「しまくとうば」は、「シマ (地域)」と「くとうば (言葉)」を合わせた言葉で、それぞれの「ふるさとの言葉」をさす。現在でも地域の伝統行事や組踊、琉球舞踊、沖縄芝居などで使われている。</p> <p>平成21年には、ユネスコ (国際教育科学文化機関) により消滅の危機に瀕する言語に指定された。県内各地の伝統行事等で使用される大切な言語であり、琉球舞踊や組踊、琉歌等の基層でもある「しまくとうば」を次世代へ伝承・促進するために、さまざまな活動を通して「しまくとうば」の普及に取り組んでいる。</p> <p>沖縄県では、しまくとうばを未来へつないでいくために、9月18日を「しまくとうばの日」と決め、県民みんなでしまくとうばを継承していくための「県民運動」を行っている。</p>
21	* 活用支援	

22	*利用分野	教育、生涯学習、地域学習
23	*改善結果	
24	*処理プロセス	
25	機関外リンク情報	
26	目標	
27	紹介	